

## Ⅰ 旧東海道地域の現況・課題の分析

---

## 1. 江戸以前

### 1.1 古くから人々が居住したことを示す遺跡・古墳

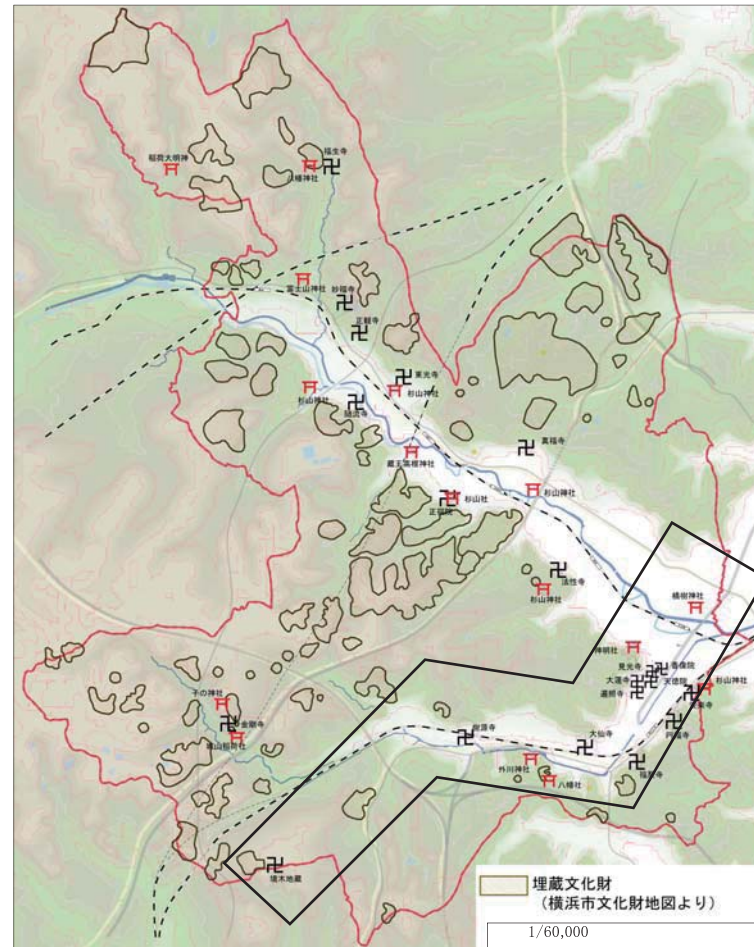
- ・保土ヶ谷区内には、帷子川、今井川の2河川を中心として、縄文時代、弥生時代の遺跡や、古墳が発掘されている。
- ・本陣南側（現在の保土ヶ谷橋近く）の台地から発掘された瀬戸ヶ谷古墳は、横浜を代表する古墳で、その規模、大きさ、埴輪が多く出土することなどから、帷子川、大岡川の両水系を支配した人物が埋葬されていると考えられている。
- ・今井町には、「山城（今井城址）」と呼ばれる丘があり、曲輪が残っている。記録は残っていないが、木曾義仲の重臣今井兼平の居城であったといわれている。

### 1.2 多くの寺社の創建

- ・寺社の多くは平安～江戸時代初期に創建されている。
- ・旧東海道地域の主な寺社は以下の通りである。
  - ・遍照寺…876年開山。
  - ・大仙寺…970年ごろ開山。本陣を務めた軽部家の菩提寺で、保土ヶ谷区内でも最も古い寺のひとつ。
  - ・神明社…970年（天禄元年）に創建され、1225年（嘉禄元年）から現在の地に存在している。かつては大門があったことから、大門通りの名が残っている。
  - ・橋樹神社…1186年（文治2年・鎌倉時代）に創建された神社である。保土ヶ谷で最古の庚申塔がある。
  - ・八幡神社…1318年（文保2年）に創建された。薬効「菊水観音」の泉跡がある。
  - ・福聚寺…1335年（建武2年）創建。
  - ・円福寺…1430年（永享2年）開山。
  - ・安楽寺…1535年（天文4年）開山。
  - ・天徳院…1573年（天正元年）開山。

[参考]

- ・「もっと知りたい保土ヶ谷」保土ヶ谷区
- ・「散策ガイド」保土ヶ谷区



## 2. 江戸時代

### 2.1 近隣地域の交通・運輸・商業の中心地であった保土ヶ谷宿

- ・1590(天正18)年に徳川家康が江戸に入ってから、保土ヶ谷付近も小田原北条氏の支配から徳川氏の支配下に置かれることになる。1601(慶長6)年には東海道の伝馬制度が定められ、保土ヶ谷宿が置かれた。
- ・現在、旧東海道として知られているのは、天王町駅前から保土ヶ谷税務署の前を通り、国道1号を通過して元町橋に出るルートだが、1601年の宿場成立当時はもっと西北の位置を通り、宿場も権太坂に近い元町にあった。その後、1648(慶安元)年に東海道のルートが変更されるとともに、宿場の位置も移転し、それまで宿場があった場所が元町と呼ばれるようになった。
- ・東海道以外にも、江戸時代から景勝地であった金沢や鎌倉、江ノ島などの名所へ向かう金沢道との合流点となっていた。
- ・宿場には、軽部本陣、藤屋と水屋の二軒の脇本陣、茶屋本陣、旅籠屋、茶屋、問屋場、助郷会所、高札場などが設置されていた。今でも、本陣や旅籠など、その場所に宿場時代の面影を残している。
- ・街道沿いの寺院は、江戸時代に開山したものも多く、宿場としての繁栄をうかがうことができる。

### 2.2 庶民の信仰を示す石仏・石塔

- ・保土ヶ谷区の路傍や寺社境内には、江戸時代に建てられた数々の石仏・石塔が残されている。特に、庚申塔は数が多く、江戸時代前期から庶民の間で庚申信仰が盛んであったことがうかがえる。また、土地の神様（農神）として五穀豊穡を祈願した地神塔や、農耕具の発達とともに貴重な労働力となった馬の供養などをおこなった馬頭観世音塔なども数が多い。

### 2.3 横浜の開港を支えた保土ヶ谷宿

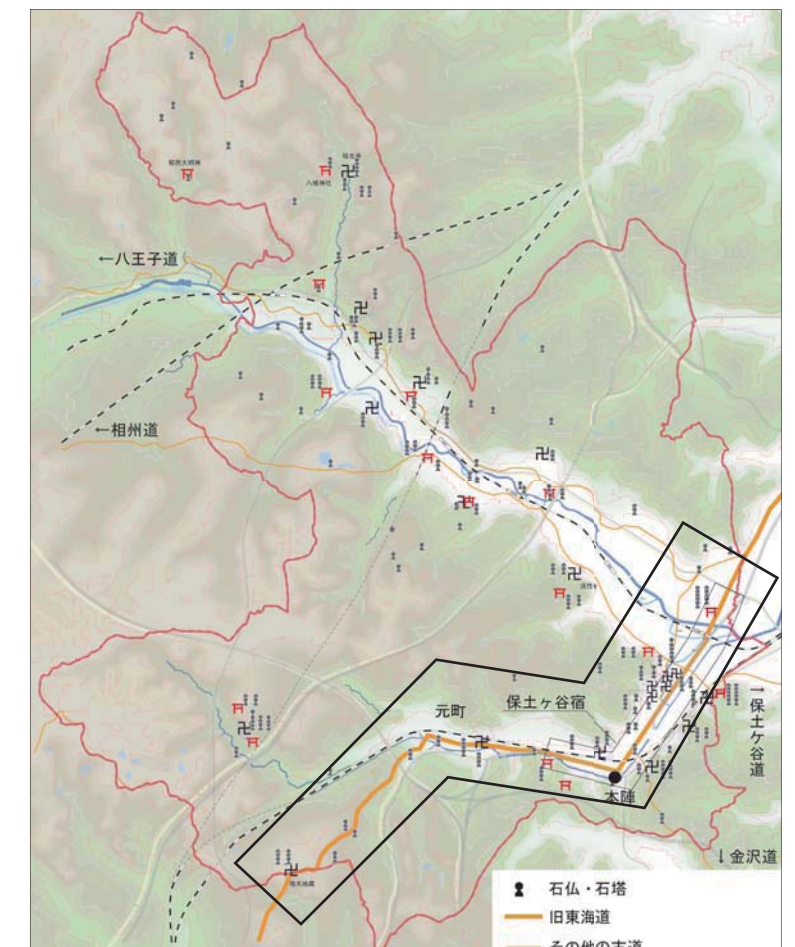
- ・1859年(安政6年)に横浜が開港すると、保土ヶ谷から多くの商人が横浜(関内)に移住し、本陣軽部家の10代目の清兵衛悦甫が「横浜町総年寄」を担うなど、神奈川宿の商人と共に、開港初期の横浜の港や町の建設など、発展に大きな役割を担った。



保土ヶ谷宿を描いた浮世絵



開港当時、関内と保土ヶ谷を結んだ「保土ヶ谷道」



## 3. 明治～戦前・戦中

### 3.1 耕地整理による発展の礎づくり

- ・明治36年から昭和5年にかけて、大規模な耕地整理が行われ、その歴史は古く、県内でも2番目、現市域では最初の耕地整理であった。この耕地整理によって、帷子川周辺の低地部では大規模工場の建設が可能となり、丘の部分は住宅地となり、現在の保土ヶ谷の骨格が形成された。
- ・桜ヶ丘付近の丘陵部分の耕地整理にあたっては、付近を桜の名所とすべく、道路の両側に776本の桜が植えられ、花見の時には多くの人出でにぎわった。

### 3.2 大都市近郊の行楽地や別荘地・住宅地としての発展

- ・「程ヶ谷カントリー倶楽部（現在横浜国大のキャンパス）」など、東京・横浜近郊の行楽地としての施設が立地していた。
- ・桜ヶ丘付近の丘陵部分には、洋館付き住宅（文化住宅）が多く立地し、ハイカラな雰囲気の漂う住宅地として、大正から昭和にかけて人気を集めていた。

### 3.3 帷子川の水運を活かした工場地帯としての発展

- ・明治から戦前にかけて、帷子川沿いに多くの工場が立地した。
- ・富士瓦斯紡績前の「表門通り」を中心に、工場周辺には繁華街が形成され、映画館なども立地し、工場の女工でにぎわっていた。
- ・これらの工場は、戦災や接収、また、公害などの環境問題が原因となり、徐々に保土ヶ谷区から撤退していった。

### 3.4 「近代水道発祥の地 横浜」を支えた西谷の浄水場と水道道

- ・近代水道発祥の地、横浜を支えるために、津久井町から鶴ヶ峰を通り、野毛山配水池まで太い水道管が引かれ、今でもそのルートは“水道道”と呼ばれている。
- ・大正4年（1915年）に「西谷浄水場」が完成した。現存する浄水場の一部の施設は国の登録有形文化財に指定されている。



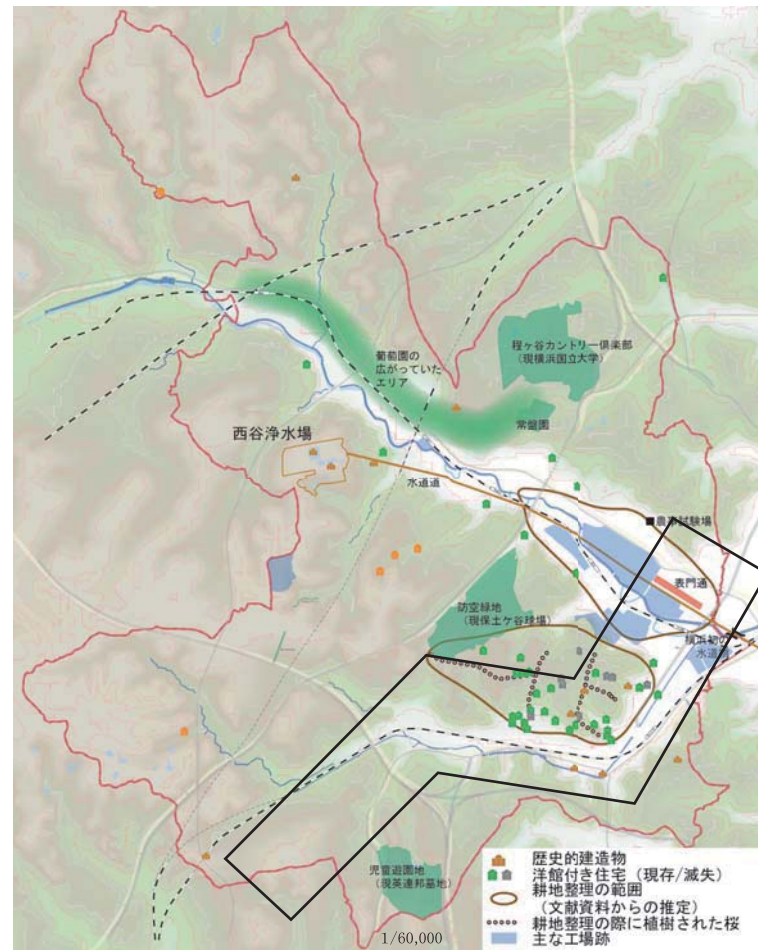
常盤園（岡野欣之助の別荘を公開した公園）



表門通りを形成した富士瓦斯紡績



西谷浄水場



## 4. 戦後

### 4.1 住宅地の増加

- ・保土ヶ谷区の大規模な宅地開発は、昭和20年代に始まった。昭和30年代には、日本住宅公団によって明神台団地、仏向団地などが建設され、昭和40年代には、笹山団地や千丸台団地の1000戸を越えるものなど、数多くの団地が建設された。
- ・昭和40年代からは、上菅田、瀬戸ヶ谷町、新井町、境木町などの民間企業による宅地開発も始まり、昭和50年代以降は民間による宅地開発が中心となってきている。
- ・大規模な宅地開発が進んだことにより、斜面緑地などの自然や農地が失われてきている。

### 4.2 帷子川沿いの工場跡地の開発

- ・帷子川沿いの工場が撤退した跡地には、横浜ビジネスパークや区役所をはじめとした行政機関の業務施設や団地などが建設され、区心部を形成している。

### 4.3 地域の拠点となる公共施設への用途転換

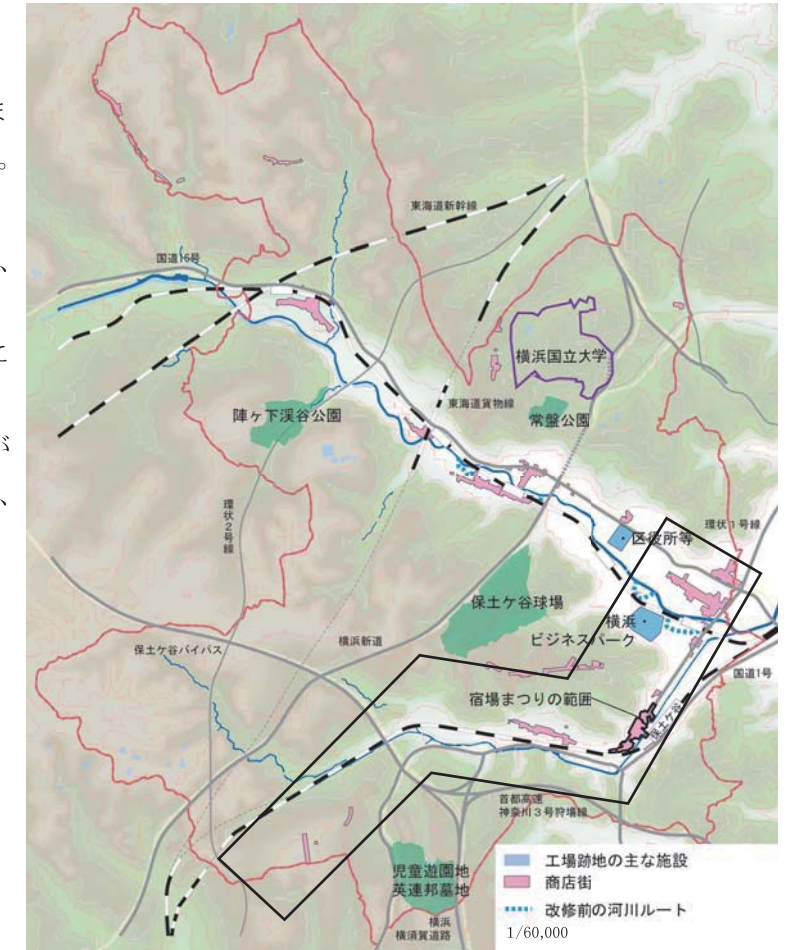
- ・戦前や戦中に開設された大規模な施設の多くは、戦後になって公共的な施設への転換が進んだ。主なものは以下の通りである。
  - 昭和21年：横浜児童遊園地⇒英連邦戦死者墓地
  - 昭和32年：防空緑地の跡地⇒保土ヶ谷球場等の都市公園
  - 昭和43年：程ヶ谷カントリー倶楽部跡地⇒横浜国立大学 など

### 4.4 河川改修や道路・鉄道の敷設などの大規模土木事業

- ・繰り返し水害を引き起こしていた帷子川や今井川は、戦後、河川改修が行われた。天王町駅前の旧河川跡地には、「天王町駅前公園」が開設された。公園は区民の意見を取り入れ、旧河川にかかる橋をモチーフにしたデザインや、旧東海道のサインの設置が行われている。
- ・現在も今井川の河川改修事業は進行中である。
- ・戦後、新幹線や環状1号線、環状2号線、保土ヶ谷バイパスなど多くの交通幹線が敷設された。また、現在でも、国道1号の拡幅事業が進行中である。

### 4.5 特徴のある賑わいの形成

- ・昭和25年に戦災の跡地に松原商店街が形成され、一帯の復興に先行した。現在では、多くの商店が集積し、全国的にも有名な安売りの商店街としてにぎわっている。
- ・平成2年からは保土ヶ谷駅周辺の商店街や区民が中心となり、「保土ヶ谷宿場まつり」が毎年開催され、旧東海道沿いのウォークイベントなども行われている。



## 2. 歴史を活かしたまちづくりの経緯

### 現状と課題

- ・現在、多くの団体やプロジェクトが誕生してきており、活動を始めている。
- ・これら団体やプロジェクト間のマネジメントを行って行く必要がある。

凡例

市民活動団体

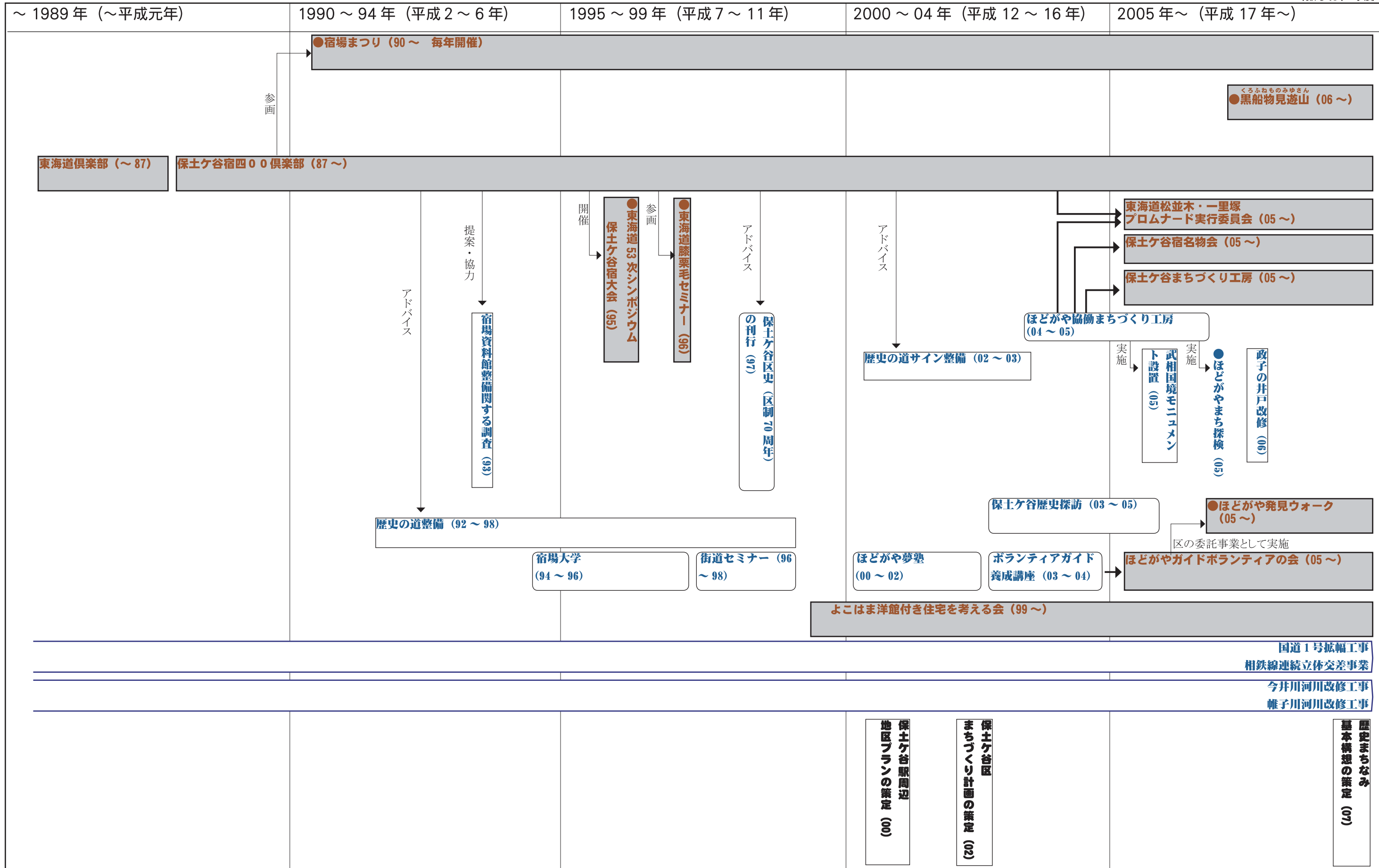
- ・ イベント

行政のハード事業

行政のソフト事業

行政による  
計画策定・調査

(数字は) 年度



### 1. 区民による歴史を活かしたまちづくり

#### ①保土ヶ谷宿四〇〇倶楽部

●設立年 : 昭和62年8月

##### ●設立のきっかけ

保土ヶ谷宿四〇〇倶楽部の前身である「東海道倶楽部」は、昭和62年に保土ヶ谷区役所の職員、保土ヶ谷図書館、地元の建築家の協力より、保土ヶ谷が宿場だった頃の資料をまとめ、「保土ヶ谷宿とまちづくり」という冊子にしました。

その後地元の町内会の数十名が集まり「歴史を活かしたまちづくり」をキーワードに倶楽部が設立されました。ネーミングオークションの結果、2001年の宿場成立400年をめぐして「保土ヶ谷宿四〇〇倶楽部」と名づけられました。

##### ●主な活動

3部会に分かれ、それぞれ担当を決め毎月の活動としています。

##### ●これまでの活動成果

歴代の代表は、独自のイベントを企画し、宿場まつりにも協力するなど、歴史ある保土ヶ谷をいろいろな意味で広報活動し、現在にいたっています。



イベントでの模型展示の様子

#### ②保土ヶ谷宿場まつり

##### ●きっかけ

前身は保土ヶ谷駅周辺の商店主などが中心になり、「ホット会」という組織をつくり、行政、企業等の助成金・寄付金等を集めながら、「宿場」をキーワードに「保土ヶ谷宿場まつり」という名称で開催されました。保土ヶ谷駅を中心に東口、西口の5商店街が協力し合い子供大名行列、宿場をテーマにしたゲーム、イベント、ミニ資料館等が開催され一大イベントとなりました。

##### ●主な活動

最近では主に西口の商店街を中心に毎年10月の第2土・日曜日に開催しています。

##### ●これまでの活動成果

保土ヶ谷宿場まつりは、既に15回を数え、他都市、他県からも知られるようになりました。



#### ③ほどがやガイドボランティアの会

●設立年 : 平成17年3月

##### ●設立のきっかけ

生涯学級「ほどがや夢塾」を支援した保土ヶ谷区(生涯学習支援係)の呼びかけで、ボランティアガイドの養成講座が平成15年に開催されました。翌年度まで2年間にわたって行われ、その運営委員と受講者有志が合同で「ほどがやガイドボランティアの会」を設立しました。

##### ●主な活動

主催	平成17年度	平成18年度(12月時点)
区の「保土ヶ谷発見ウォーク」	6回	4回 253名
依頼ガイド	6回	7回 238名
企画ガイド(会主催)	1回	2回 168名
その他(区民まつり、生涯学習フォーラム)	1回	2回 28名
街道ウォーク	1回	2回(定点ガイドのため参加者多数)
合計	15回 540名	17回 687名

##### ●これまでの活動成果

- ・発見ウォーク用「散策ガイド」製作
- ・ガイド地図「歴史を歩いてみよう」編集に協力
- ・区の各種企画に委員を派遣



#### ④協働による松並木・一里塚プロムナード事業

##### (東海道松並木・一里塚プロムナード実行委員会)

●設立年 : 平成17年9月

##### ●設立のきっかけ

保土ヶ谷1~2丁目の今井川沿いの河川、道路工事で生じた空間の活用を、四〇〇倶楽部を中心に考えていたところ、松並木を再創造しようという意見がまとまり、平成17年度ヨコハマ市民まち普請事業へ応募し、設立されました。

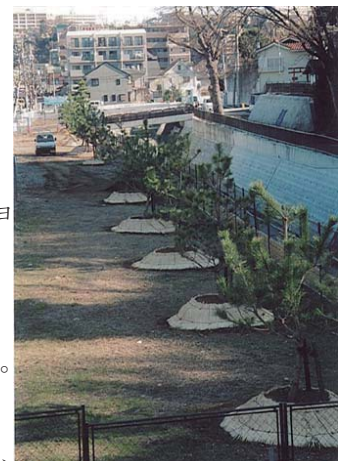
##### ●主な活動

月1回の定例会で、事業の進捗や作り方の検討。

松並木づくりの機運を高めるためのイベントを通し、地元で周知をはかっています。合わせて協力者を募るため、駅伝大会や地域の祭りなどでビラの配布を行っています。一方、保土ヶ谷区役所も関係機関との調整や、実行委員会とのコミュニケーションを図り、事業の進行に協力しました。

##### ●これまでの活動成果

松32本、枝垂れ梅、枝垂桜、榎の各1本の植え付け、並びに一里塚が完成しました。今後、一里塚の説明版の設置や一部の植え込み地の見切り柵をつくり、花などの植え付けを運営委員の手で実施します。また、今後の管理にあたる愛護会を結成し、新年度から、運営委員会がそれに移行する予定です。



### 1. 区民による歴史を活かしたまちづくり

#### ⑤保土ケ谷まちづくり工房

- 設立年 : 平成 17 年 10 月
- 設立のきっかけ

保土ケ谷区では、平成 16・17 年度に、まちづくりの実践的なプロジェクトを行うことを目的とした講座である「ほどがや協働まちづくり工房」を実施しました。「ほどがや協働まちづくり工房」の参加者有志により、講座で得られたノウハウや人的ネットワークを活かし、区内の中間支援団体となることを目指して設立されました。

#### ●主な活動内容

- ・「しゃべり場」（地域の様々な情報やお互いの意見を交換し、まちづくりについて考えていく場）の実施
- ・区制 80 周年記念事業の一環としての「保土ケ谷 80Kei」づくり
- ・事務局代行などによる区内の団体の活動支援

#### ●これまでの活動成果

- ・しゃべり場
- ・「保土ケ谷 80Kei」づくりなど



しゃべり場の様子

#### ⑥保土ケ谷宿名物会

- 設立年 : 平成 17 年 3 月
- 設立のきっかけ

2004 年 7 月から始まった「ほどがや協働まちづくり工房」の「ほどがや名物づくりプロジェクト」の一環として、以前から保土ケ谷または保土ケ谷宿にちなんだ商品開発を行っているお店 6 店（桑名屋・栗山・ごん太鮓・ふらんすやま・針立商店・保土ケ谷せんべい）が集まり地域イベントへの出品・出展を中心に活動を開始。その後、行政の事業の中のプロジェクトの一環としてのみではなく、独自の組織としての運営が必要という見解から 2005 年 3 月に会を設立しました。

#### ●主な活動内容

毎月 1 回の会合開催、地域イベントへの出品・出展 他

#### ●これまでの活動の成果

従来、個別に営業していた各店が連携することにより、内部的には相互のコミュニケーションや情報発信量が充実しました。また、「名物会」に参加していることで自店や商品に対する誇りやモチベーションが高まったと言えます。

外部的にも名品・名店が「束」になることにより地元名物としての知名度や価値が高まったと言えます。



イベントへの出店の様子

#### ⑦黒船物見遊山

- 設立年月日 : (実行委員会) 平成 18 年 5 月
- 設立のきっかけ

2005 年 5 月に開催された JR「駅からハイキング」（同時開催「街道ウォークまつり」の実績を経て、市内の商店街及びまちづくりに携わる人材が独自で商店街及び地域の活性のきっかけになるイベント実施を目指し設立しました。

名称「黒船物見遊山」は、150 年前、日本に黒船が現われた際、全国の若者が黒船という「世界」を觀に各地から横浜に結集しました。その中には後に日本の歴史に少なからぬ影響を及ぼす事になる人材（高杉晋作・坂本龍馬・近藤勇等）も多数いたというエピソードに基づき命名しました。

#### ●主な活動内容

（第 1 回については）戸塚－保土ケ谷－藤棚－御所山－吉田町－伊勢佐木町－開港広場の約 20km のウォークイベントの実施。（及びその準備）

#### ●これまでの活動の成果

各地で各々の活動をしている個人・団体が連携したことにより、壮大なイベントが実現しました。また、実行委員会内でも他地域や他団体の活動や特色の違いを実感することができました。



#### ⑧よこはま洋館付き住宅を考える会 (YYJK)

- 設立年 : 平成 11 年
- 設立のきっかけ

洋館付き住宅に関心を持ついくつかの市民団体や横浜国立大学（建築計画研究室）の有志による 1 年間の活動を経て発足。

#### ●活動の目的

洋館付き住宅は、大正時代から昭和初期に多く建てられたものだが、材料も良く、しっかり作られていて、しかも修理もキチンとされているので、いまでも住み続けられています。その間取りは、現代のライフスタイルの原型となっているものです。洋館付き住宅には、これからの長く住み続けられる住宅づくりのヒントが隠されています。YYJK では、洋館付き住宅に長く住み続けて、私たちの“まちの宝物”として大切にしていきたいための、市民と専門家による非営利の支援を行っています。

#### ●これまでの活動成果

- ・調査・研究の実施：洋館付き住宅のデータベースの作成、メンテナンスの技法や生活文化に関わる事柄の調査・研究
- ・学習会、見学会、展示会等の開催
- ・居住者の支援：改修工事コンサルティング、不要になった住宅の部材や生活用具などの保管と必要な方への提供、国登録有形文化財への申請支援
- ・“昭和の暮らし体験学習プログラム”の開発
- ・同様な取り組みを行っている他都市の市民活動団体（NPO）との交流
- ・会報の発行、ホームページの開設、小冊子の発行などによる情報発信



### 2. 行政によるハード整備事業

#### ●保土ヶ谷宿歴史の道整備（平成4年～10年）

昭和56年に横浜市によって策定された総合計画・基本計画「よこはま・21世紀プラン」の中で、保土ヶ谷区が区別計画として打ち出した、「道からはじまるまちづくり」をベースに進められた事業である。

当時から保土ヶ谷宿四〇〇倶楽部等の住民活動も盛んで、整備にあたっては、数回の住民ヒアリングを実施しながら計画策定・設計が進められた。



環状1号線歩道部分

天王町駅前公園



歴史の道整備範囲  
古道

#### ●歴史の道サイン整備

保土ヶ谷区では、平成10年と14年に歴史の道サインの総合案内板の設置を行っている。

また、平成15年～16年にかけては、総合案内板を2か所、史跡説明版・史跡説明ポールを18か所、誘導案内板・誘導案内ポールを12か所に設置した。

史跡説明ポールは、追分、本陣跡、脇本陣（藤屋、大金子屋）、茶屋本陣、旅籠（本金子屋）、江戸方見付跡、上方見付・一里塚跡、助郷会所跡、問屋場跡、高札場跡、旧古町橋跡、旧中の橋跡、旧元町橋跡、権太坂、境木立場跡などに設置されている。



総合案内板



史跡説明版



誘導案内板



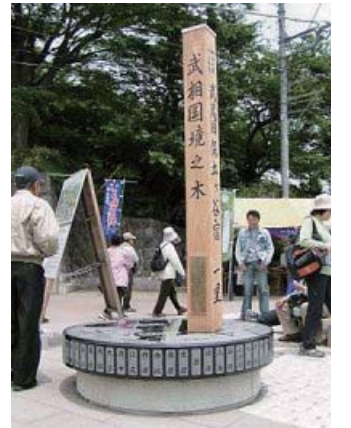
史跡説明ポール

#### ●歴史スポット整備（武相国境モニュメント、御所台の井戸）

##### ■武相国境モニュメント

「武相国境モニュメント」は、区民と協働してまちづくりをすすめるために平成16年度に発足した「まちづくり工房」のメンバーが企画し、保土ヶ谷区在住の二人の横浜マイスターによって製作された。江戸時代、東海道の武蔵国と相模国の国境を示す目印として立てられ、地名の由来ともなった「境木」を現代に再現したものである。

モニュメントは都市計画道路の整備とあわせて設置された。モニュメントの周辺には、境木地蔵尊やオープンスペースがあるため、ウォーキングイベント等の際に、地域住民や市民活動団体によって、周辺の空間が活用されている。



##### ■御所台の井戸

政子の井戸には、鎌倉幕府初代将軍源頼朝の妻、北条政子が鎌倉へ向かう途中、ここで休み、この井戸の水を使用したという説がある。

昭和48年に屋根と柵が設置され、その後、地域の岩井町自治会などにより清掃や花壇の手入れなどの管理が行われていたが、月日の経過と共に、屋根などの劣化が目立つようになったため、地域住民や、地域で歴史に関する活動をされている人の意見を取り入れつつ、平成17年度に井戸の屋根と外構の改修を行った。改修にあたっては、保土ヶ谷区の地域文化財としての魅力を更に高めるため、横浜マイスターの関野氏の協力も得た。また、住宅街の中にある貴重な自然としても地域住民が親しめるよう、併せてベンチも設置している。



#### 区による主なハード整備事業（年度）

H4～10	歴史の道整備
H6	歴史の軸 マスタープラン策定
H7	保土ヶ谷小学校跡地利用計画策定（東海道宿場資料館整備を想定）
H7	歴史の軸サインデザイン・設計
H14～15	歴史の道サイン整備
H16	まちづくり工房 今井川プロムナード整備検討
H16	武相国境モニュメント設置
H17	ヨコハマ市民まち普請事業へ【松並木・一里塚再創造プロジェクト】提案
H17	政子の井戸改修工事

## 2. 歴史を活かしたまちづくりの経緯

### 3. 行政によるソフト事業

#### ●ほどがや夢塾

平成9年から11年にかけて実施された生涯学習講座「街道セミナー21」では、講師を招いて、歴史学の講座が実施されてきた。その講座が終了するのを受けて、平成12年から3年間、静かに話を聞くだけでなく、参加者が主体的に動く、行動型の生涯学習の場として、「ほどがや夢塾」が開催された。

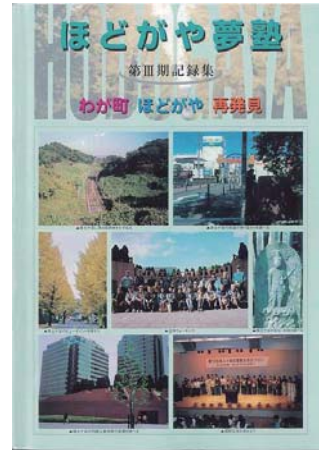
参加者はグループに別れ、地域の調査・研究等を行った。

- ・保土ケ谷のビューポイントを探そう！
- ・身近な自然を見直し、私たちのまちのよさを知ろう！
- ・保土ケ谷の石仏・石塔を調べよう！
- ・保土ケ谷の街道の移り変わりを調べよう！
- ・工業地帯が今、区の中心部にーその移り変わりを学ぼう！
- ・国際交流を深めよう！

以上6つのグループに分かれて、保土ケ谷に関する調査・研究が市民主体で進められた。



石仏・石塔の調査



夢塾の成果を集めた記録集

#### 区による主なソフト事業（年度）

H6～8	『宿場大学』 東海道と保土ケ谷宿に関する講座、実習など（行政と区民協働の運営委員会方式）
H7	歴史の軸 PR マップ作成
H7	『東海道53次シンポジウム』 保土ケ谷宿大会 宿場町相互の情報交換、交流
H8	『東海道膝栗毛セミナー』 3区合同（神奈川、西、保土ケ谷）、講演会と史跡探訪（協働平成10年度 保土ケ谷宿四〇〇倶楽部とともに手作りの道標を沿道に設置）
H9～11	街道セミナー 東海道、相州道、八王子道など区内の街道に関する講座、実習など（協働）
H12	まちづくり補助事業 保土ケ谷宿まつりへの補助
H12～14	ほどがや夢塾 地域の歴史、自然などをテーマにまちづくりに向けた相互学習講座（協働）
H15	旧東海道スタンプラリー（鶴見、神奈川、西、保土ケ谷、戸塚の5区連携）
H15～16	ガイドボランティア養成講座 区内の散策ガイドを養成
H15～17	ほどがや歴史探訪 保土ケ谷の今と昔を学ぶ講座 計6回 484名
H16	小学生を対象にした「ほどがやまち探検」
H17	まちづくり工房 歴史マップの作成
H17～	ほどがや発見ウォーク 寺社、史跡めぐり

#### ●ほどがやまち探検

平成16年から実施された、区主催のまちづくり講座「ほどがや協働まちづくり工房」では、その実践プロジェクトとして、「まちづくり学習サポートプロジェクト」が行われた。このプロジェクトは、区内で活動している市民、市民団体、教育機関等との人材・情報ネットワーク体制を活かしながら、主に保土ケ谷区内の小学生を対象に、保土ケ谷区の地域資源を活かした“まちづくり学習”企画を実施した。

平成17年1月には、保土ケ谷区内の小学生を対象とした「ほどがや まち探検」を、小学校と協働で行った。「ほどがや まち探検」では、教科書や総合的学習の時間等に勉強したことをベースに、実際にまちに出て、身近な人に、昔の保土ケ谷についてインタビューを行い、その成果をまとめ、発表した。



インタビューの様子



成果をまとめている様子



発表の様子

### まち探検で見つけた 保土ケ谷の宝物 紹介マップ

※各コマは子供たちの感想を引用しています。

**1.本陣（野郎家）**  
江戸時代からずっとあり、現在で17代目だそうです。今も、昔の門だけ残っています。大名行列は300人いて、トイ、風呂も運んだそうです。宿料金は大名のお風持ちで、決まっていたそうです。

**2.脇本陣（藤木さん）**  
昔、おとの様、おひめ様が泊まったそうです。昔のひの「は」が14個もありました。現在、16代目だそうです。ふすまの中ばりから昔の宿帳が出てきたそうです。家が古く(100年前)、静かでした。

**3.金子屋**  
昔のすずりや、仏さん、昔の冷蔵庫を見せられました。陣子には、雪を見るための小さな窓がありました。

**4.大仙寺**  
現在、42代目。米俵三俵を一度に運んだ(180kg)という、米俵の形をした、お伝さん(力持ちの女性)のお墓があります。野郎家の墓がたくさんあります。明治3年にかかれた墨絵があります。

**5.小島写真館**  
ふぎ(浦儀)の写真と、昔の保土ケ谷駅の写真を見せてもらいました。満州国の密偵御用達の写真館で働いていたそうです。昔、保土ケ谷駅西口に流れていた川には、うなぎがいたそうです。昭和30年ごろには、家から天王町の駅が見えたそうです。

**7.キク薬局**  
昭和23年から薬きよくをしているそうです。戦争がおわるころは、自分の畑でやさいをつくっていた、いものつるを食べていたそうです。かたがら金儲けの場所は、前は消防署で、牛車がかかっていたそうです。

**8.遍照寺**  
日本がさこく(鎮国)をしていたときに、象は、長崎から江戸まで、東海道を歩いたそうです。この象は、その時の想像(うわさ)ではなかったそうです。2体あり、ゆびが5本あり、蹄のつめのようになっています。

**11.神明社**  
神明社には300年前の太鼓があり、今でも使っているのでびっくりしました。

**12.宇田川さん**  
「井戸が見えてよかった。井戸は深さ4mもあったのでびっくりしました。」

**13.山崎さん**  
戦争の終わった後、アメリカ軍がきたので、みんな逃げたそうです。この商店街は、戦争や、「じよつくようしゅうてい」(船)でも海でも使えぬ)を置くところだったそうです。今のカラーニュージウムも、昔は、飛行機だったそうです。

**14.山崎さん**  
天王町の昔の話をしてくれました。昔の商店街の写真を見せてもらいました。昔の映画館は家みたいな形だったそうです。昭和20年くらいに天王町駅ができたそうです。コミュニティセンターは平成10年にできました。

**15.磯貝水産店**  
昔の色んな様子や道具がわかった。とくに昔の様子や道具が写っている写真があったのでとてもわかりました。  
・最初は、うま、取材できるか不安だったけど、うまく質問できてよかった。  
・取材の報告を発表するときは、緊張しました。  
・グループごとに分かれて地図を見ながら移動したのが面白かった。

**16.川古谷石材**  
まち探検日は残念ながらお話を聞くことはできませんでしたが、昔の小学生の生活のお話などをしていただきました。隣の商店(川古谷)には、きれいな絵がたくさん飾ってあります。

**9.大蓮寺**  
徳川家康のおくさん「おまん」のうたと、ザクロの木があった。にれんしようにんがたちよった時、子供が仏像をおもちにしていた。大事にしたい。お寺に持って来た。昔大蓮寺は、保土ケ谷宿の中心で、向かいの山までの道が入り道だった。

**10.川古谷石材**  
いしうす(石臼)や、「ふいご」がありました。ふいごの風はすごかったです。小さいころは、自分で遊ぶ道具をつくっていたそうです。おでんさんは力持ちで、180kgも持っていたのがびっくりした。大きな仏像にびっくりした。

**11.神明社**  
神明社ができたのは平安時代で、750年前に神戸町にきたそうです。寺をあらうお水を入れる石は、重さ1トンで、250年前にお相様さんが運んだそうです。おやしのある大だいこは300年前のものでした。地下には、たらのようなたいこや、はかり、うすがあります。

**12.バイクの宇田川さん**  
戦争のときは給食がなくて、一度お昼を食べに帰ったそうです。昔はまわには家が全然なく、線路だけでした。隣の家は、今でも井戸が残っています。井戸の中はすいかなどを入れて、冷やしていたそうです。昔はバイクはなく、自転車しかなかったそうです。

インタビューの成果をまとめたマップ